



社会福祉法人 村 山 苑

村山苑だより



▲ 朝霧高原にて 立花直美氏 提供

「新年を迎えて」

理事長 品川 卓 正



新年あけましておめでとうございます。地域の皆様をはじめ、法人役員皆様方のおかげをもちまして、法人内各施設は無事新年を迎えることができました。改めて感謝申し上げます。

一昨年の社会福祉法の改正施行に続いて、今年も介護報酬と障害報酬が改

定され、保育では保育所保育指針が改定され施行されます。また、生活保護関係では社会保障審議会生活困窮者自立支援及び生活保護部会での議論の結果報告がなされるものと思われ、村山苑の四種別施設が事業を継続していくための鍵は、制度改定の内容を理解し、具体的な対策を練って、事業展開に如何に反映させるかです。制度改正の中で、最も注視しなければならぬと思つてゐるのは介護報酬の改定です。新聞等の報道によれば、財務省は中小企業に比べて介護保険事業は収支差率が高いとの理由で下げる必要があるとし、訪問介護と通所介護などに関して具体策を提言しています。現時点では減額改訂が決定したわけではありませんが、村山苑の事業で、厳しい経営状況にあるのは介護保険事業です。特に、通所事業においては、既に収支のバランスが不安定な状態となっております。今後、国の報酬改定に向けた動向等に注意しながら法人の介護保険事業への対策を考えていきたいと思います。今年から平成三十三年までの間、老朽化による養施設の改築を予定しており、一定の収支差額を確保し、改築資金に充つたいと考えています。

村山苑の今年の大きな事業として、ひよし保育園の移転改築工事が本格化します。保護者の皆様と地域の理解と協力を得ながら順調に工事を進め、予定通り八月には開園したいと思つています。そして、今年も経営施設の更なる発展と法人施設を取り巻く環境を見据え、安定した法人経営に努力するとともに、引き続き、法人独自の地域公益活動への取り組みに加え、東村山市社会福祉協議会や東京都社会福祉協議会が進める社会福祉法人の地域連携事業にも積極的に関わりたいと考えています。

ハトホーム南館建替えのための地域へのアンケート調査から見えてきたもの

ハトホーム

施設長 島山 千春

一九七二年ハトホーム(南館)は百名定員の施設として開設しました。一九九七年北館を増築し、定員も百八十名になりました。老朽化した南館の建て替えも決まり、建替え後ハトホームにどんな機能を持たせるのか、併設する事業は、地域交流スペースの活用方法などを話し合うなか、地域の方たちのニーズを知りたいとの思いが強くなり、富士見町内の住民を対象にアンケート調査を行いました。

「富士見町内における地域福祉推進に関するアンケート調査」は富士見町(二丁目五丁目)内二千世帯に調査用紙をランダムに配布しました。回収は郵送で行い回収数四百二十四票(回収率二十%)でした。調査用紙は自記式質問紙調査、調査期間は十月六日～十月三十日としました。主な調査内容は富士見町の居住年数や基本属性に加え、ご近所とのかかわり、地域で解決すべき優先課題、充実すべきサービスなど二十項目について調査しました。

調査結果ですが、量的調査は集計しましたが、膨大な自由記述は現在集計

中です。この紙面をお借りして量的調査の一部をご報告させていただきます。

○基本属性・調査用紙記入者の六十六%が女性であり、五十代以上が八十三%でした。最も多かった記入者の年代は七十代でした。二人暮らしですか」との質問には、無回答を除く回答者中十八%が一人暮らしでした。

○富士見町の居住年数の平均は三十二年でした。「今後も富士見町に住み続けたいか」との質問には、八十三%の方が今後も住み続けたいと答えています。



▲ 正月琴演奏 (東久留米西高校生徒の皆さん)

○「現在自治会の活動に参加しているか」との質問には、「参加していない」が「参加している」を上回りました。

○「地域で優先的に解決しなければならぬ課題はあるか」との質問には、第二位 高齢者のみ世帯の安否確認、第三位 災害が発生した際、とりわけ高齢者、障がい者の安否確認や避難場所の確保、第三位 孤独死の防止、第四位 誰でも自由に出入りできる「居場所」づくり、第五位 高齢者の交流の場の順でした。

○「富士見町をこれまで以上に住みやすくするため、今後充実にさせてほしいと思うものは」との質問には、第一位 福祉に関する情報の提供、第二位 在宅で生活するための福祉サービス、第三位 福祉サービス利用に当たっての調整や支援、第四位 介護予防の取り組み、第五位 福祉の相談窓口の順でした。

○ハトホームの建て替えを機に、「ハトホーム」にどのような福祉サービスや機能があれば良いか」との質問には、第二位 デイサービス、第二位 訪問介護、第三位 短期入所、第四位 災害時の避難場所、第五位 困らなくてもできるスペース、以下、認知症の相談支援や多世代交流の場、介護教室、介護相談などが続いています。

今回の調査で、質問項目の各選択肢への回答数から①回答者の同居家族の回答を見ると、単独世帯や夫婦のみの

世帯が多く、家族構成が減少している。②高齢化や自治会活動の不参加は生活防衛機能、親睦連帯、行政末端の補完と言った自治会の機能を弱めてしまっている。③「問題を解決する力」が失われるのではないかと。④回答者の多くが不安に思うことや解決すべきこととして、災害時の避難場所や安否確認、孤独死の問題を挙げていることから、地域の防災組織や住民組織が地域の人々の命を守るといって役割が薄れてきているのではないかと。⑤圧倒的多数の回答者が在宅で生活を続けたいと希望していました。一方で福祉情報や制度、サービス提供機関等にアクセスできずにいます。⑥多くの人が「居場所」「交流の場」「困らぬ場所」を求めていることが分かりました。

以上の調査結果をハトホームの今後の運営に生かしていきたいと考えています。



研修報告

村山苑研修会を実施して

村山苑

研修担当施設長 佐久間文字

毎年、村山苑の法人研修として「新任者研修」「テーマ別研修」「特定職種（看護師）研修」「新任職員フォローアップ研修」「福祉サービス研修」を行っています。そして今年も、今までの研修に加え「フォローフォロー研修」を新しい試みで五月に行ってみました。

現在、介護職・保育士が不足している中、人材を確保できないために事業継続が出来ない事業所もあります。我が法人としても人材確保と定着が主要なテーマになっている今、それらを検討していく中で、これからの人材確保・育成・定着について、村山苑に就職して三～六年目の若い人に本音の意見を聞く会として、「フォローフォロー研修」を企画し意見情報交換を行いました。

初めに、参加者全員から、その後はグループに分かれてディスカッションを行いました。村山苑全体や各施設の良いところやもう少しこうなると良いなど、色々な意見が出されました。その中のいくつかを紹介します。

法人を知ってもらうための動きとして、

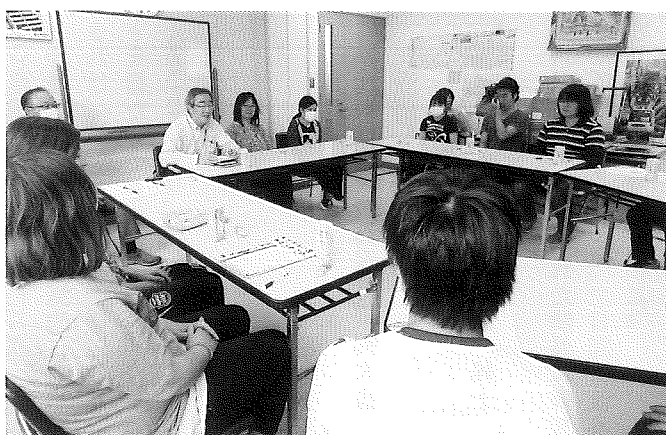
足を運んで直接伝えることが必要。
シフトの具体的な勤務時間や有休が取れるところなのかなど、具体的な情報を発信した方が良い。

同じ敷地内に高齢者施設、保育園があるので交流をもっとしていき、それをアピールしていくと良いと思う。

学校では求人が多すぎるが、見るポイントが決まっている。目を引くポイントや特徴が大切。

同世代の気心の知れたスタッフがいることが、勤務継続の決め手になる。

給料や待遇面が鏡張りオープンなところは良い。他では、規程を配布していないところもある。



等、まだまだたくさん出されました。グループでも同じような意見が多く聞かれました。法人としても今後の人材確保にこの意見を参考にしていきます。

十月には看護師研修がありました。「看護師の視点から見た職場の課題」をテーマに、参加者6人で現場の状況や情報交換をしました。

保育園での取り組みとして、「咳エチケット」の話が出ました。

咳やくしゃみをするとうイルスが二～三メートル飛び、その周辺にいる人は、ウィルスの感染を受ける可能性がある」と説明されました。

看護師も、介護と保育の現場では、課題も違っていて難しいですが、年に一回顔を合わせる場があつて良いと感じています。

今後も法人研修では、村山苑の全職種に役に立つ研修会を計画していきたいと思ひます。

改定保育所保育指針研究会の講習を受けて

ひよし保育園

保育士 木村 浩己

平成三十年年度保育所保育指針の改定に向けひよし保育園でも、

改定される内容を中心に様々な話し合いがされ、進められています。

参加させていただいた研修では、全国保育士会会長や厚生労働省の保育指導専門官、大学の専門の先生など多方面の方から改定にあつたての話を聞くことができました。

今回の改訂では、教育内容については、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領や幼稚園教育要領との整合性が確保されています。その中でも指針の総則の中にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、毎日、保育士や友だちとの関わりや生活、あそびの中で過ごす乳児期（0歳児）幼児教育で育みたい資質・能力土台作りが始まっていると考えられ、年長児に振り返った時にその子がどう育ってきたのかを見る評価の項目であるそうです。

それとともに同じく総則の中の1つにある「保育の計画及び評価」という項目について、一人ひとりの子のびのびとその子らしく成長発達できるよう、各園で考えられた保育課程や保育の計画を基に保育をすすめる保育士の日々の気づき（月案や日誌など）や反省・評価を記録し残すという重要性を改めて感じました。

さやま園 交換研修に参加して

村山荘

援助員 山田未奈子

村山荘では、平成二十八年度よりさやま園との交換研修を実践し、職員のスキルアップや課題を見つけておこなうに努めています。就職してから村山荘での経験のみだった私にとっでは、大変貴重な機会を頂けたと楽しみにしている反面、不安もありながらの研修でした。

村山荘では、救護施設の役割である通過型施設として、施設内自立を始め、地域移行に向けた取り組みに力を入れていますが、さやま園では、知的障害と自閉症、ダウン症の方が多く、年齢的には若いものの自立や地域移行を目指す方は少なく、施設内で出来る日中活動を盛んに行っているとのことでした。

日中活動は障害の度合いや能力に応じて内容が違い、五種類ほどに分かれています。

手作業のもの、調理のものや身体を動かすものなど様々で、食事前には誤嚥予防体操など行っているとのことでした。どの活動にもほとんどの方が笑顔でいきいきと参加されており、声を出す機会も多く、健康に留意した活動を積極的に取り入れながら、楽しみややりがいを見出せる活動を行って

ることが非常に印象的でした。

今後とも交換研修を積極的に実施できれば、課題を見つけ、良い部分にヒントを得たりできてお互いに向上し合えることもあり、良い機会であると感じました。

第六十二回東京都保育研究大会を受講して

つほみ保育園

保育士 武藤 純子

六月六、七日に行われた研修に参加させていただきました。二日間に渡る盛りだくさんの研修でした。

二日目の分科会で、『保育所保育指針と保育実践を考える』をテーマとして、現在私は二歳児クラスの担当をしているので、二歳児クラスの二つの実践発表を聞きました。

最初の園の発表は、「ごっこ遊び」を事例にして経験豊かな保育士が新人保育士も巻き込んで、子どもの遊びの様子や個々の姿を汲み取り、遊びを広げて子どもの想像力を膨らませて、ごっこ遊びがどんどん豊かになっていく様子が伺え、私が目指したい二歳児の発達や友だちとの関係の広がりを感じました。ただ、経験豊かな保育士が

経験の浅い保育士と保育をしていくには、二歳児の具体的な発達などを保育指針に沿い、照らし合わせて進めていくことが必要になってくると思いました。

そして、もう一つの園の実践では、園だけで『ルーブリック』という評価システム(評価表)を作り、それを活用し子どもの発達を科学的に評価し支援に繋げるというものでした。共通理解がしやすく課題が明確になるという利点は大きくあると思いました。しかし、それぞれの個性や表面的には見えていないが、見えない部分に隠されている心理を読み取ったり、それを感じ取る力はどう養われていくのだろうかと考えさせられました。

自分自身の経験を活かしながら、両園の評価すべき点をバランスよく保育の中に融合することで、子どもの育ちを保障し、より充実した保育を目指せるのではないかと思います。

工賃向上研修会を受講して

福祉事業センター

目標士賃達成指導員 根本 佑貴

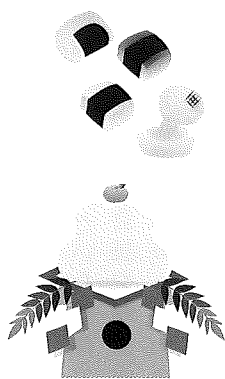
平成二十九年九月二十二日に工賃向上研修会に参加しました。

この研修は「日本財団から見た工賃

向上について」という内容の研修でした。工賃向上といえば一般的な考えでは「売り上げを多くするために仕事を沢山受けてくる」「新規取引先を見つける」等のが考えに出てくると思いますが、今回の研修では、そのようなすぐ目の前の工賃アップではなく、日本財団からの助成金によって施設自体を大きく変化させて、工賃をアップさせていこうという考えでした。

例として、月十五万円しか売り上げを上げられなかった事業所が助成金によって建物から立て直し、月六十万円の売り上げが上げられる事業所へ変わったという事業所の紹介がありました。日本財団では、以前までは沢山の施設に少しずつ助成金を寄付するとう考えでしたが、現在は寄付する施設の数を減らし、一つの施設に寄付する助成金の金額を増やし、それによって、施設を劇的に変化させるということを目指して活動を行っているとのことでした。

この研修を活かして、福祉事業センターでも助成金を費えればできること等を考えながら工賃アップを目指していきたいと思えます。



さつき荘の食事に関する現状と
今後の対策を考える研修会

さつき荘

相談員 大坂 友美

さつき荘では誤嚥性肺炎での入院が、平成二十八年は二名、平成二十九年は十一月までで二名です。特徴的なのは、昨年も今年も同じ方が二度三度と誤嚥性肺炎で入院されていることです。

高齢化や精神薬による嚥下機能の低下は、さつき荘全体を考えてみても避けて通れない課題であることから、施設全体として取り組む必要性を感じ、まずは講義形式の研修を企画しました。平成二十九年六月二十八日、ふじの温泉病院の言語聴覚士北郷達也様より、嚥下機能や解剖生理学的な知識をご教授いただき、摂食嚥下障害チェックシートも紹介していただきました。

嚥下と言うと、つい食べている口の周りのことばかり考えてしまいがちですが、食するときの座る姿勢や、イスの背もたれがどんな形状か、どんな材質かにも言及されており、全体を見る視点が必要だということも学びました。平成二十九年十月二日付けで、口腔ケア対策チームが発足し、まずはチェックシートを用いて利用者様の嚥下のアセスメントをしていきます。

研修委員会として日ごろの支援から課題を抽出し、それに関した知識や技術を習得することを目指して今後も研修を企画していきたいと思っています。

保育所保育指針の改定に関する
研修会を受講して

ふじみ保育園

保育士 皆川 朋美

新保育所保育指針が、平成三十年四月から施行されます。今回の研修でその変更点について、保育内容の質を高める観点で具体的に学んできました。

特に新指針では、乳幼児期は、心と体の健康に密接な関連があり、触れ合いの中で心と体の発達や身体を動かそうとする意欲を促すことが大切であるとうたっています。

ポイントは大まかに二点に絞られます。①三才未満児は身体的、社会的、精神的に発達する時期として重要視し、愛情や信頼感が芽生え、自らを十分に発揮し、自信を育み自分を肯定する気持ちや育む時期であり、この時期の育ちが生涯にわたり人との関わりの中で生きていく基盤となる為、受容的・応答的な保育の重要性を説いて

います。②三才以上児の保育では、子どもが周囲に働きかけることにより、多様な感情を体験し、試行錯誤しながら、あきらめずにやり遂げる達成感、前向きに見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、保育士は見守りながら適切な援助を行うことが必要だとしています。

また、五才児、修了時まで育てほしい姿を保育士等と小学校の教員の間で共有化する事で、幼児教育と小学校教育の接続の連続性をねらいとしています。

この研修で学んだことを踏まえ、どのように子どもたちと向き合っているのか、職員間で共有し話し合い、より良い保育を目指していきたいと思っています。

子どもの健康と安全セミナーに
参加して

ほんちよう保育園

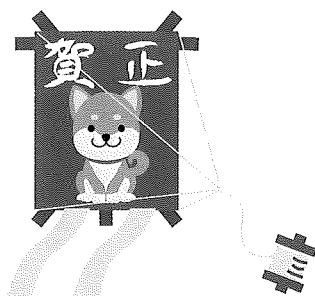
看護師 久保 誠子

平成二十九年八月三十一日に開催された、全国保育園保健師看護師連絡会主催の「子どもの健康と安全セミナー」に参加させていただきました。緊急時対応における看護職の役割と

職員間の連携、保育園における感染症対策、保育所におけるアレルギー対応など、充実した内容の一日でした。

子どもの安全を守るためには、①平常時からの職員間の連携(コミュニケーション)が大切である。②緊急の事態はいつ起こるかかわからずその時のための対応は、日常から意識して準備をしておかないと出来ない。ということが、全ての講演に共通していました。

救命処置は「わかる」から「できる」に向けて、シミュレーション形式による役割分担や、イメージをしておくことで「いざ」というときに体が動くとの話がありました。ほんちよう保育園では、毎年、クラス毎、部署毎に起こりそうな事故を想定した、シミュレーションを実施しています。日々の多忙な業務の中で計画・実施・評価まで行うことはとても大変なことですが、この実践を繰り返して、全職員で最悪の事態を起ささないために、協力していきたいと思っています。



研修に参加して

ハトホーム

調理員 南雲このみ

「アクティブ福祉in東京17」、都内の高齢者福祉施設の職員が、日々実践し研究したことなどを発表する大会です。発表テーマは大きく八つあり、テーマごとに二発表十五分の講演発表でした。例えば、(A)誤嚥性肺炎対策として、日常的に行える事を多角的に取り組み、口腔ケアを行う事で入院者が減少したこと。(B)ポジショニングケアの重要性や知識を習得することを通してご利用者の安楽な姿勢保持の統が出来たこと。(C)他職種の現場を体験することで、職員同士の理解が深まり新たな改善点を発見することが出来たなどの発表が印象に残りました。また、地域を対象としたアンケート調査で、子どもの居場所に関するニーズが多かったという報告がありました。「高齢者だけでなく子どもの



生活環境改善は、社会福祉法人が取り組むべき課題の一つである」という意見には共感しました。

私は調理の仕事をしていいますが、今回の研修をとおして、他職種の現状や課題を知る機会になりました。同時に、職種を超えて目的意識を共有し共通の目標に向かうことが職員の意識の向上とサービスの質を高めることにつながると確信できました。今回の研修に参加させていただき、私自身も成長したいと強く思いました。

高齢者施設における接遇マナーを学ぶ研修会を受講して

ハトホーム在宅サービスセンター

介護職員 星 貞子

東京都高齢者福祉施設協議会が主催する、「高齢者福祉施設における接遇マナーを学ぶ研修会」に参加させて頂きました。研修の概要は、①社会人としてのマナー、モラル、ルール、②敬語の種類と使い方、③社会人としての電話対応、④言葉をとどのように表現するか、⑤会話でのポジティブ表現、⑥組織におけるコミュニケーションとは、といったテーマで講義の他、ロールプレイングやグループワーク、個人ワークを行いました。

今回の研修に参加して、敬語の使い方やコミュニケーションの持ち方等々、仕事をしていく上で必要なことを改めて知らされたと思います。介護職として利用者に対する接遇が疎かになりつつあったように感じていましたが、講話の中に、「接遇とは、人を人としてみる、接遇は自らのためである」というお話がありました。馴れ合いになることなく、人に対してポジティブな見方をし、自らの感情をコントロールできるよう努めていくこと、接遇とは、ご利用者とそのご家族に対して安心、安全なサービスを提供し、質の高いサービスを目指すことだと理解することができました。今後の業務の中で、ご利用者の笑顔が増え、満足して頂けるサービスが提供していけるよう努めていきたいと思えます。

地域ケア会議に参加して

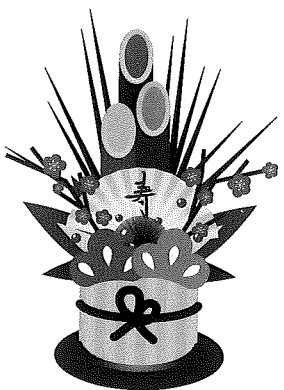
ほんちようケアセンター

介護支援専門員 野崎 礼

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法で、多職種の協働による課題の解決を進めていく会議です。

今回参加した会議では、認知症の母と障がいを持つ子、入院中の父の「三人家族の生活」を考える会議の傍聴してきました。ケアマネジャー、ホームヘルパー、訪問看護師、障がい児施設の職員、市の障がい支援課等十二名で「服薬できているの?」「二人分を一緒に見ています(ヘルパー)」「娘さんのショートステイの利用はどう?」「それなら〇〇日間使えますよ(障がい児職員)など互いに知らない生活状況や介護サービス、障がい支援サービスを知ることができた結果、三人家族の「生活の兆し」が垣間見られた会議となっていました。

これからは医療、介護、障がいの他、保育等、別々ではなく協力していく事が必要になってきます。当法人では、この地域包括ケアシステムを担う事業を多く運営しているため、さらに協力し地域に住む方々の力になれるよう、私は日々勉強し、知識を深め医療、障がいと連携できる専門職になる事を目指します。



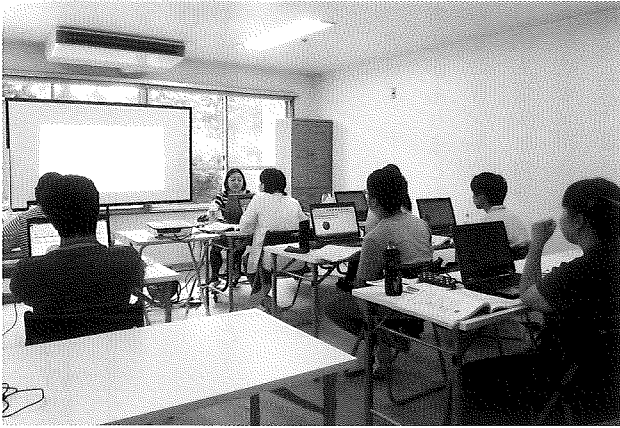
施設通信

就労移行支援の活動紹介

福祉事業センター

生活支援員 池上美登里

就労移行では、就職に向けての支援を行っています。「会社で働きたい」という方に就職に向けて必要な訓練や作業を計画的に行っていく、企業就労を目指していく場所となっています。主に四つの訓練プログラムを中心に働く力を身につけ、訓練を通して



社会人としてのルール・マナーの習得も積み重ねていきます。

就労に向けて力を身につけていくことや技術の習得として、講師を招いてマナー講座やパソコン講座の実施にも取り組んでいます。パソコン講座では、社会貢献のひとつとして地域の皆様や支援機関の方々等に受講のご案内をお声かけし参加頂いています。今年度は退所された利用者や委託訓練利用者等三名、就労移行支援事業所ピアスカター一名、障害者就業・生活支援センターけるんから二名の方が毎回参加されています。

また、東村山市歯科医師会から講師をお招きし、はみがき講座を毎年実施しています。十一月には、生活習慣や健康維持の促進として口腔ケアに取り組んでいることが評価され、東京都多摩小平保健所主催「歯ッピー大会イン東村山」では、福祉事業センターの代表として利用者数名と参加しました。利用者の皆さんが東村山市長から表彰状と景品を頂き、緊張しつつも誇らしげな様子が伺えました。

こういった取り組みを実施していく中で、利用者の「働きたい」という気持ちを尊重し、より良い支援を目指すことで利用者一人一人希望の実現に向けて取り組んでいます。

乳児クラスのお芋堀り

ほんちよう保育園

保育士 田茂井雅人

ほんちよう保育園では、秋の行事でお芋堀りを行っています。幼児クラスは園外へ、乳児クラスは園庭の畑で育てたサツマイモを掘ります。

園庭のサツマイモ畑は毎年五月に苗を植える所から始まります。保育者がシャベルで耕したり、肥料をまいたり、畝を作る所を子どもたちに見せていきました。そしていよいよ子どもたちの出番の苗植え！土の感触や匂いに触れながら楽しんでる子、虫探しになる子、土を触るのが苦手だけれど頑張つて触る子など、いろいろな姿を見せてくれました。

苗を植えた後は掘るまでの間、畑に



ジョウロで水やり。葉っぱが大きくなる様子を、子どもたちと一緒に保育者も喜び、共感していきました。日が経つにつれて子どもたちから「水をあげたい」と、保育者に伝える姿も出てきました。

お芋堀り当日、育てたサツマイモを嬉しそうに掘る子どもたち。土の中のサツマイモを見つけて「あった！」「みて！」。掘ったサツマイモを手にして「おおい！」「ちいさいね」など子どもたちの声でいっぱいになりました。そして、サツマイモを友だちや保育者、ケアセンターの利用者の方々に嬉しそうに見せ、喜んでいました。

お芋堀りでは、生活や遊びを通して、サツマイモに触れたり、成長を喜ぶことが出来ました。また子どもたちも様々な経験をして、お芋とともに大きくなれたように思いました。



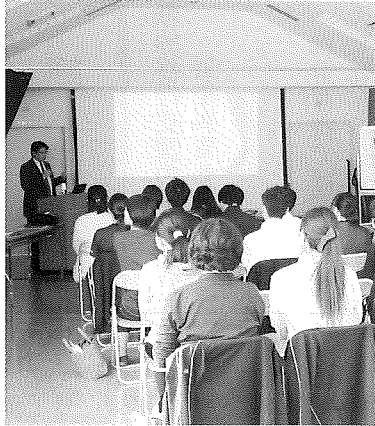
地域向け講演会開催報告

ひきこもり支援講演会

〈家族支援者が今できること〉

〔実施日〕

平成二十九年十月十二日(土)



当日は三十七名(地域からは九名)の参加がありました。講演は長年引きこもりの青少年への支援を行っているNPO法人青少年自立援助センターの河野久忠氏をお招きして、ひきこもりの長期化、高齢化、着目点等を分かりやすくお話し頂きました。

これを機に今後、法人として制度に繋がりにくいひきこもり状態にある方々とその家族に向けた支援の検討を考えていきます。

認知症を知ろう!

〈認知症サポーター養成講座〉

〔実施日〕

平成二十九年十二月二十五日(土)



当日は三十六名の参加があり、近隣地域からは二十二名の参加がありました。養成講座は西部包括支援センターに講師を依頼して実施しました。開催を始めて三年目になり、高校生を始め地域にお住いの多くの方々にご参加頂きました。

今後このような取り組みを積極的に進めていきますので、よろしくお願ひ致します。

村山苑が経営している施設

- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-5 ●法人本部 ☎042-13993-8496
- むらやまえん生活相談所 ☎042-1313-0301
- 村山荘(救護施設) ☎042-1391-1262
- ハトホーム (特別養護老人ホーム) ☎042-13993-7574
- ハトホーム 在宅サービスセンター ☎042-1398-2555
- 福祉事業センター (障害福祉サービス事業) ☎042-13995-3663
- ふしむ保育園(保育所) ☎042-1394-9936
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-8-2 ●さつき荘(救護施設) ☎042-13996-2244
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-2-2 ●つぼみ保育園(保育所) ☎042-13993-6400
- 〒189-0014 東京都東村山市本町3-43-1 ●ほんちよう保育園(保育所) ☎042-13999-2100
- ほんちようケアセンター (高齢者施設) ☎042-13999-2102
- 〒185-0032 東京都国分寺市日吉町2-20-15 ●ひよし保育園(保育所) ☎042-1572-4175

▲あともがき▼

明けましておめでとうございます。昨日のニュースで平成という元号は平成三十一年四月三十日付で終了し、翌五月一日から新元号になると伝えていました。昭和と平成は世代間ギャップを含めてよく比較されておりましたが、そこに新たなジェネレーションが加わってくるようになります。昭和生まれの私としては随分長く生きたような気持になってきますが、未だ見ぬ新しい時代に思いを巡らし、残された平成という時代を精一杯生きて行きたいと思えます。平成三十年が皆様にとりまして良い年となりますよう、ご祈念申し上げます。

(S・Y)

本紙は本人同意のもとに写真作品等を掲載しております。

* * *
 ご意見・感想等お気付きの点がございましたら、左記へお寄せ下さい。

平成三十年一月一日 発行
 東京都東村山市富士見町二七七一五
 社会福祉法人 村山苑
 発行者 品川卓正
 印刷所 東京都同胞援護会事務局
 東京都墨田区両国四一―一八

寄附金 について

左記期間において、御寄附いただいた皆様をご紹介いたします。

ご支援ご協力いただき、心から感謝申し上げます。

(敬称略・順不同)

■ 平成二八年四月一日～平成二九年三月三十一日

- ◇ 志賀寛子 ◇ 長田皓子 ◇ 野田敦子 ◇ 鈴木マリ江
- ◇ 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 特別養護老人ホームひかり苑
- ◇ たんぽぽ薬局 ◇ パイロットハウス東村山 尾形重夫 ◇ パリー美容室
- ◇ ひばりが丘自治会一同 ◇ マイマートきむら ◇ コスモス医工 ◇ (株)共伸インテリア
- ◇ (株)光洋 ◇ (株)山口建興 ◇ (株)真栄パートナーズ ◇ (株)川俣建築研究所
- ◇ (株)増田禎司商店 ◇ (株)保谷園 ◇ 黒岩接骨院 黒岩伸介
- ◇ 桜華女学院中学校 日体桜華高等学校 ◇ 山手則子 ◇ 手塚真一 ◇ 松田商店
- ◇ 松島クリーニング ◇ 聖心女子学院 もゆる会
- ◇ 倉田正子 ◇ 大谷建興(株) ◇ 田越商店 ◇ 渡辺電気管理事務所
- ◇ 東京厚生信用組合 小平支店 ◇ 東光建設(株) ◇ 八木澤弘子 ◇ 半澤 恒子
- ◇ 富士見老社会 ◇ 萌留珠 ◇ 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校
- ◇ 矢定時夫 ◇ (有)スギモト米店 ◇ (有)にんや杉田商店 ◇ (有)ハマナカ事務機
- ◇ (有)榎本豆腐店 ◇ (有)丸富商店 ◇ (有)久米川青果店 ◇ (有)木下工業所 ◇ (有)鈴木紙工
- ◇ (有)高橋米穀店

